

第1回 芦屋市地域福祉計画策定委員会議事録

日 時	平成28年2月16日(火) 14:00 ~ 16:00
会 場	市役所東館3階 大会議室2
出 席 者	委員長 牧里每冶 副委員長 長澤豊 委員 佐瀬美恵子, 竹迫留利子, 西村京, 杉田俱子, 安宅桂子, 今川裕子, 木下浩昭, 大永順一, 柴沼元, 村岡由美子, 橋野浩美, 山内祥弘, 針山大輔, 山岸吉広, 園田伊都子, 寺本慎児 (敬称略) 事務局 福祉部地域福祉課 細井洋海, 浅野理恵子, 吉川里香, 元木舞, 宮本ちさと, 片岡睦美 関係課 福祉部障害福祉課 鳥越雅也 福祉部高齢介護課 宮本雅代 策定業務委託先 エフプラン研究所 原田仁
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 部分公開
傍聴者数	0人

1 開 会

2 委員委嘱

3 市長挨拶

4 委員紹介及び事務局の紹介

- 5 委員長・副委員長の選出  
 委員長・・・牧里委員  
 副委員長・・・長澤委員

6 議事

- (1) 第3次地域福祉計画に向けての経過報告 (市民会議)  
 (2) 市民意識調査について  
 (3) 今後のスケジュール  
 (4) その他

7 資料

事前配布資料

- 第1回 第3次芦屋市地域福祉計画策定委員会 議事次第  
 地域福祉市民会議ニュースレター  
 市民意識調査 (案)

当日配布資料

- 地域福祉計画策定委員会委員名簿

芦屋市地域福祉計画策定委員会設置要綱  
第2次芦屋市地域福祉計画推進のための取組  
第2次芦屋市地域福祉計画実施プラン票（福祉部以外・アクションプログラム推進協議会）  
芦屋市創生総合戦略 原案より一部抜粋  
芦屋市創生総合戦略 概要版より一部抜粋  
市民意識調査票  
第2次芦屋市地域福祉計画  
第2次芦屋市地域福祉計画中学生概要版  
第2次芦屋市地域福祉計画概要版  
地域福祉に関する市民意識調査報告書  
市民が創る福祉プロジェクト活動報告書2014  
いのちまもるあしや～減災リーフレット～  
あしやわがまち通信第5号

## 8 審議内容

(1) 第3次地域福祉計画に向けての経過報告（市民会議）

（地域福祉課 細井）

第2次芦屋市地域福祉計画についての取組等について説明

（地域福祉課 片岡）

第3次芦屋市地域福祉計画に向けて行った地域福祉市民会議について説明

（牧里委員長）

市民会議に参加された委員から、感想や課題を聞かせてください。

（竹迫委員）

テーマを決めて話しあうなかで、「そういう方法もあったな」ということを感じました。

提言のひとつの「スマートおせっかい」について、若い頃はおせっかいな人は嫌だと思っ  
ていましたが、今となってはやはり大切だと感じていますので、いかにスマートにやるか、こ  
れから作られるDVDが楽しみです。

（西村委員）

実際に活動されている方が集まりましたので最初から熱気があり、思ったことをストレ  
ートに発言できました。また、それに対する意見を聞いているうちに、何でも行政を頼って  
はいけないと思いつつ、頼ってしまっていたことに気づくなど、すごく学びが多い機会でした  
ので、実現につながればよいと思っています。

（杉田委員）

報告のビデオに登場した方が点字を触りながら発表されていたように、今回の市民会  
議には視覚障がいのある方が何人か参加されたことがよかったです。いろいろな市民の方と  
一緒に話しあう場で能力を発揮されたことを誇りに思いますので、これを機会に、他の障が  
いのある人もこのような場に出てほしいと思いました。

（大永委員）

自分の地域だけでなく、芦屋市全体のイベントを企画してみようという提案がまとまりま  
した。自治会は高齢化が進み、若い人をどう取り込むかが大きな課題ですが、そのような取  
組をすることで新しい人が入ってくれるのではないかと思います。

（園田委員）

日頃の活動のなかで、地域の人との困りごとの相談を伺っていますが、困りごとと担い手を

つないでいくしくみが確立できていないことも現実ですので、提案されたプロジェクトを継続していくことで、「ちょっとしたお手伝い」が身近なところでの活動として、広がっていけばよいと思っています。

(牧里委員長)

それでは佐瀬委員から、これからの期待も含めて総括的にお願いします。

(佐瀬委員)

みなさんがいろいろな意見を出されるので、毎回楽しみでした。あとは、具体的にどうしていくのか、どうつながっていくのかですので、全市に広げる上でも、このような計画づくり必要だと感じました。杉田委員も言われましたが、視覚障がいのある人が参加されて当事者の声をきちんと聞いたことは、市民会議の大きな収穫だったと思います。当事者の声を聞くチャンスはなかなかありませんが、いろいろな局面でいろいろな立場の人の意見を取り入れ、「地域には多様な人が住んでいる」という視点を忘れないように、計画づくりに反映していければよいと思いました。SOSを発信できない人にも、どのように手を差し伸べるのかとともに、どのような活躍の場を提供するのかなど、いろいろな議論ができればよいと思いましたが、市民会議に参加された方は、地域に戻ってすでに半歩ぐらいは進まれているのではないかと期待しています。

(牧里委員長)

それでは、委員のみなさんが、第3次計画に向けた希望や願いとして考えておられることをお聞きしたいと思います。地域福祉計画は行政計画ですが、他の福祉分野の計画以上に、市民が参加し、経験や知識を活かしていくことを趣旨としています。高齢者、障がい者、外国人など、さまざまな人が一緒に住んでいくには、どんな暮らし方をして、お互いに協力しあうかが課題になります。そこでは、これまでの行政の枠を超えたことがたくさん出てきますので、市民のみなさんと一緒に考えるという観点から、思っていることを出してください。

すべてが計画になるわけではありませんが、いろいろな議論をすることが施策に転換されると考えてほしいと思います。「芦屋がこのようになってほしい」、「こんなことができるのではないかと浮かんだことをストレートに出すことが一番のポイントであり、地域福祉計画を豊かなものにしますので、まず、寺本委員からお願いします。

(寺本委員)

市民会議には最初と最後しか参加できませんでしたが、視覚障がいのある人が参加されたことは非常によかったと思います。市民会議での話しあいから「一緒に頑張っていこう」、「一緒に生きていこう」ということが生まれてくると感じていますので、市民会議で議論したことを地域に返していくことの繰り返しが大事だと思います。第2次地域福祉計画は、この5年間で確実に市の職員に浸透してきました。いろいろな部署とつながって市政をすすめるという考えにならないと、新たに取り組む「創生総合戦略」も進んでいきませんので、そうした土壌を広げられたことは大きな成果だと思います。課題はいろいろありますが、まずは評価し、市民会議で進んだものを広げていければと思っています。

(針山委員)

生きづらさや暮らしにくさを感じている当事者が、計画づくりから活動に参画していくプロセスがとても大事ですので、そういう計画にするよう、アイデアを出していきたいと思っています。

(山内委員)

私の家は三世代世帯で、父は車いすで生活していましたが、介護保険サービスは非常に充実していると思いました。しかし、子どもが生まれたとき、三世代世帯では保育所入所の優先順位が低いので、妻は仕事を辞める決断をせざるを得ませんでした。地域福祉はすごく範

困が広く、高齢者のサービスは充実している一方で子育て支援はまだ足りないということも、自分がその立場になって初めてわかったことです。セクションごとではなく、トータルでやりとりができる仕組みができればよいと思います。

(村岡委員)

福祉はすごく奥深く、先が見えそうで見えないという感じがしています。私はまだ半分ぐらいですので達成したいという気持ちはありますが、時間的な問題などでできないことが残念です。高齢者は1人で行動する人が多いので、2人、3人で行動できるような居場所づくりの流れをつくりたいということが夢です。それを実現するヒントがあればと思って参加させていただきます。

(安宅委員)

市民会議の提案にも出てきた「まごのて」のお茶会ですが、100円で参加でき、知らない人どうしても1時間、2時間とおしゃべりができますので、よい試みだと思います。私は認知症のことで関わっており、ときどきお手伝いをさせていただいています。商店街の一角のこじんまりとした所ですが、知らない人も寄ることができますし、ベンチで休むこともできますので、このような所がもっとあればよいと思います。

(木下委員)

さきほどからのご意見に、地域で活動されているみなさんのエネルギーを感じて心強く思っています。私の職場は、どちらかといえば地域から孤立したり生活上の課題を抱えている方々から相談を受けたりする機関で、地域福祉の可能性と地域福祉の力を頼れない面の方を感じています。地域のなかで孤立している人は、つながるためのアクションを自分から起こしていけない方が多いと思います。子育て世代でも、人と対面するのは苦手だけどスマホでのつながりが広がるなど、地域を意識しない活動をされている方もおられますが、必ずしも良いつながりではないものもあります。スマホでつながっていても充実感を得られない親御さんもおられ、地域でのつながりに戻って来られるしかけが必要だと感じていますので、ITが進歩した中で地域福祉がどういう役割を果たしていけるか、みなさんのアイデアを楽しみにしています。

(柴沼委員)

私が一番感じていることは、地域で活動する人がだんだん少なくなっており、いかに誘導するかが大事だということです。老人クラブの会員も減ってきており、私たちの側も問題があるかと思いますが、社会全体で、みなさんの情報をていねいに聞いて実行させるということが抜けており、これから必要ではないか、そうすれば地域の活動を楽しくやっていただけるようになるのではないかと思います。

(橋野委員)

私たちの法人は「あしや市民活動センター」の指定管理者で、市民のみなさんから「ボランティアをしたい」という相談が結構あります。リタイアした方からの相談が多いのですが、「ボランティアがほしい」という情報は少ないので、ボランティアの依頼を募るポスターを貼り出させてもらっており、市民会議の報告にあったようなプロジェクトが立ち上がれば、紹介できると思います。そういう意味で、この委員会に参加されている社会福祉協議会やボランティア連絡会などの市民の側と、行政の関係課をコーディネーションできる場があれば解決できるのではないかと考え、社会福祉協議会なども参加されている話しあいの場で提案しました。そうした場があれば、行政のなかもつながっていくと感じています。私も地域福祉計画の内容は今回初めて知りましたので、当事者の声を聞いて次のアクションに入るためのバックアップを、コーディネーションできるところがほしいと思います。

(山岸委員)

権利擁護支援センターでは、毎年9月から翌年の2月にかけて「権利擁護支援者養成研修」を行っています。国の施策として市民後見人がすすめられていますが、広く市民の方に権利擁護の担い手としての役割をしていただければと考えており、広報の問題もあって受講生が少ない状況ですが、市民の方が活躍できる場として提供させていただいています。専門職はどうしても、意思判断能力の低下した方を弱い方として「守らないといけない」というかたちになってしまいますが、市民会議の報告で視覚障がいのある人が積極的に参加されていたのを見て、守るばかりではなく主人公になった地域づくりが必要だと感じ、ひとりの市民として生活できるように考えていかなければならないと、改めて認識しました。

(今川委員)

私は音訳したCDをお送りするボランティアをしており、視覚障がいのある人とお話をしたりご意見をお聞きしたりする機会があります。その活動だけを一生懸命やってきましたが、連絡会に入っているいろいろな活動をしているボランティアの方と意見交換し、いろいろな活動に力を入れてされていることがわかりました。連絡会では、一般の方にもボランティアに関心を持っていただくために「活動展」を年1回開催していますが、興味を持って来ていただける方が非常に少ないことが現状です。一生懸命活動しても広がりが少なく、福祉のことをみなさんに伝達するのは本当に難しいことだと思っています。報告のあったプロジェクトにもどこから参加すればよいか戸惑っている状態ですので、これから勉強させていただきたいと思います。

(牧里委員長)

いろいろな意見をいただきましたが、副委員長からもお願いします。

(長澤副委員長)

私も初めて参加させていただき、地域福祉がいかにいろいろなものを含んでいるかがよくわかりました。障がいのある人や病気の人を守るのが福祉ですが、地域福祉は、それ以外の若い人や子どもなど、あらゆる人が対象になるということで、大変だと思いました。今の世の中は「安全」がキーワードではないかと思っていますが、これはどの世代の人であっても大切なことです。そのためには、みんなが緊密に顔をあわせて知りあいでいるようなイメージがつけられないといけないと思います。こうした大きな話をすすめるために、小さなことから無限のやり方がありますので、何からやっていくかを考えたいと思います。

(牧里委員長)

地域福祉にはいろいろなことがあり、間口が広いですが、非常に単純化して言えば、「どんな人も住民として存在を受け入れる状態にする」ということです。行政は高齢者、障がい者などの分野によって、住民として生きている人を区切ってしまっています。例えば、老人ホームに入ると地域とのつながりがなくなってしまいますが、つながりを残すために、老人ホームの空きスペースを借りてカフェをしているボランティアがいます。こうしたことは専門職だけでも、住民だけでもできない、お互いが力を寄せあいながらやっていく取組です。

いろいろな意見をいただきましたが、そういう目で見ると、何が足りないのでしょうか。

第2次計画で推進されているベンチプロジェクトは、見知らぬ人がつながる最初の取っかかりとして、とてもすばらしい取組だと思いますが、他にもたくさんアイデアがあると思います。そうしたことを出して、芦屋から全国発信していただければと思っています。

私たち以外の市民のみなさんが考えていることをお聞きするために、市民意識調査を実施するよう、事務局で案を練ってもらっています。たたき台を説明してもらい、意見をいただきたいと思っています。

## (2) 市民意識調査について

(地域福祉課 細井)

市民意識調査票(案)について説明

(牧里委員長)

お気づきの点があれば、意見をお願いします。

(橋野委員)

意識調査はこれでよいと思いますが、これから何を引き出していくのかがわかりません。

5年前の調査の報告書には単純集計が出されていますが、クロス集計が大切だと思います。

クロス集計を行うことで「30代の人は何に困っているのか」など問題点が抽出されますので、報告書にも挙げていけばわかりやすいと思いました。

(牧里委員長)

調査後の集計のしかたということですね。他にいかがでしょう。大きいことでも細かなことでも結構です。

(針山委員)

思いつきの意見ですが、調査の内容から仕方がないとは思いますが「何に困っているか」の質問が多いので、全体的にネガティブな感じを受け、私が回答者であれば少ししんどいと感じました。地域福祉には担い手を増やしたりつながりをつくったりしたいという狙いがあり、「何かをしたときに心地よく感じること」が市民に広がればよいと思いますので、調査手法としては難しいですが、例えば「バスのなかで中学生が高齢者に席をゆずった」というような例を挙げて、「それを見てどのように感じたか」を聞くことで意識を醸成できれば、少しポジティブになるのではないかと思います。

(杉田委員)

そう言われると、この調査は「困った」という言葉がたくさん出てきますが、「どんなときに楽しいですか、幸せですか」ということや「話しあえる友達はいますか」といったことも聞けば、バランスが取れるのではないのでしょうか。「六甲の山を見ているだけで芦屋はいいなと思う」といったこともよいと思います。また、私は調査に答えるのが大好きなので回答しますが、依頼文のタイトルを読んでつまらないと思う人がいるかもしれませんので、「あなたの答えがこれからの芦屋の福祉を動かすかもしれませんので、ぜひ調査に参加してください」ということを楽しく語りかければ、頑張ってもらえるかもしれません。

(針山委員)

「ホッとする」、「安心する」というようなビジョンを示し、「そういうことがあるかどうか」を聞けば、わかりやすいのではないかと思います。

(安宅委員)

みんなが幸せだったら地域福祉計画を策定する必要はないので、やはり困りごとを抽出しなければいけないのではないかと思います。

(杉田委員)

困りごとでも楽しいことも抽出すればよいのではないのでしょうか。私の会の会員さんで「芦屋は大好きだけどパチンコ屋がないのがつまらない」と言った人がいて、そういうことを幸せと感じる人もいるのだと思いました。回収率が低いとあまり意味がないので、まじめな方向だけでなくいろいろな方向から答えを引き出すように、たくさんの方が回答してくれる工夫をしないといけないのではないかと思います。

(木下委員)

他の市民意識調査などで、「人のために役立ちたい、地域のために働きたい」といったポジティブな意見を把握していれば、そうしたこと調査の導入部分に提示すれば、考えてみようと思うのではないのでしょうか。市の調査になれば、全国や県の調査でもよいと思います。

(橋野委員)

依頼文は文字が多すぎて、読まないのではないのでしょうか。

(牧里委員長)

ポジティブなものを入れた方がよいというご意見が多いようです。

(コンサルタント事業者 原田)

ご意見をいただきありがとうございます。依頼文には書いておかなければならないことがあります、「声を聞かせていただきたい」という呼びかけをわかりやすくする必要はあると思いました。この調査票は困りごとの質問が最初に出ていますが、3ページからは担い手としての意識をお聞きしています。担い手の設問を前に出せば調査票の雰囲気は変わりますが、いきなり「あなたは何ができますか」と聞かれると、自分には関係ないと感じる人も多いのではないかと、まずニーズをお聞きしたうえで、それらを解決するための参加についての考えをお聞きの方が答えやすいのではないかと考えました。ネガティブなイメージは表現で工夫できることがあると思いますので、全体の流れについてどうすべきか、ご意見をいただければと思います。

(牧里委員長)

細かなことですが、問13-(9)の選択肢2の「参加者として参加している」は言葉が重なるので、「行事や活動に参加している」などにした方がよいのではないのでしょうか。

ポジティブな調査にするのは大変だと思いますが、5年前の調査ではベンチプロジェクトのことなども聞いていました。

(事務局 細井)

市民会議で提案されたプロジェクトへの参加意向をお聞きしましたが、その結果を計画に反映させるのは難しかったため、今回は調査の対象年齢を引き下げたため回収率が下がることも想定し、設問数を少なくするために設問からは外しております。また、ポジティブな質問についても、例えば景観のことを地域福祉計画に反映するには難しい面があります。

そのため、市民意識調査では表現を工夫することでネガティブなイメージを回避するとともに、市民会議の延長としてプロジェクトを実現していくためのワーキンググループなどを設置していきたいと考えています。

今回の市民会議では話しあいの方を「課題解決」から「夢の実現」に変えましたので、そこでポジティブな部分をすくい上げて、計画に反映させたいと思っています。そのように、2つの手法で困りごとと積極的なことの両方をお聞きしたいと考えています。

(牧里委員長)

違った手法で把握していくということですね。

(山内委員)

問13-(7)は、5年前の調査では選択肢が「15年以上」までだったのが「30年以上」までになっていますが、もっと長く住んでいる人もいますので「50年以上」まで入れてはどうかと思います。また、阪神淡路大震災の前と後でも区切るとよいと思います。

(牧里委員長)

選択肢に工夫の余地があるということですね。時間がきましたので委員会での議論はこれで終わりたいと思いますが、資料を持ち帰ってお気づきの点が出てきたら、事務局に連絡していただければ検討したいと思います。

(事務局 細井)

お手元に電話やメールの連絡先を配付させていただいていますので、代替案も含めてお送りいただけるとありがたいです。申し訳ありませんが19日までご意見をいただきたいです。いただきましたご意見について、委員長、副委員長とも協議させていただくというこ

とで、事務局で預からせていただいてもよろしいでしょうか。

(牧里委員長)

市民のみなさんのご意見をお聞きする手法はいろいろあり、この策定委員会もそうですし、市民会議のようなワーキンググループや地区ごとの住民懇談会でお聞きする方法もあります。多くの人の意見を聞くにはアンケートがよいということです。それぞれの手法には長所も限界もありますので組みあわせて、市民のみなさんが感じていることをできるだけリアルに集約し、計画に盛り込んでいこうということで、引き続きご協力をお願いしたいと思います。

### (3) 今後のスケジュール

(地域福祉課 浅野)

#### 第3次芦屋市地域福祉計画策定までのスケジュールの説明

(牧里委員長)

策定スケジュール案について、質問や意見がありますか。策定委員会も5回程度しか開けませんので、できれば委員のみなさんの周りの方の意見やアイデアも聞いて次回の委員会に臨んでいただければ、少しでも広く市民のみなさんのご意見が拾えると思いますので、私からお願いしたいと思います。

### (4) その他

(地域福祉課 細井)

#### 今後の予定について説明

(牧里委員長)

それでは、本日の議事は、すべて終了しましたので、閉会いたします。

みなさま、ありがとうございました。

閉 会